平成 25 年度 第 1 回 松田町地域公共交通会議 議事録

- 1 日 時 平成 25 年 11 月 18 日(月) 10 時 30 分～11 時 30 分
2 場 所 松田町役場 4 階 4AB 会議室
3 出席者 構成員：別紙「会議名簿」のとおり(26 名出席・5 名欠席・1 名欠員)
事務局：企画財政課(鈴木課長代理、鍵和田企画係長、重野主査)

【配布資料】

- 次第
- 出席者名簿
- 資料 1-1 デマンドバス事業から乗合バス運行事業補助への変遷
- 資料 1-2 デマンドバスに代わる松田町独自の乗合バス運行事業等(平成 24 年度下半期以降：平成 24 年度第 1 回公共交通会議時配布資料に同じ)
- 資料 2 乗合バス運行事業実績等(平成 24 年 10 月～平成 25 年 9 月)
- 資料 3 松田町地域公共交通対策について
- 資料 4 松田町地域公共交通会議設置要綱
- 参考資料 富士急湘南バスの土休日の一部ダイヤ改正について
(寄便・ブルックス循環便)
さかわがわ流域バスマップ(バス路線案内：2011 年 1 月発行)

【会議概要】

司会進行(鈴木課長代理)

- 1 開 会
- 2 会長挨拶 会長 古館 信生より
- 3 町長挨拶 松田町長 本山 博幸より
- 4 構成員挨拶 各構成員より
- 5 事務局紹介 事務局職員より
- 6 議 題
 - ① 協議事項 デマンドバスに代わる松田町独自の乗合バス運行事業等
〈次年度の運行体制について〉
 - ② 報告事項 松田町地域公共交通対策について
松田町地域公共交通会議設置要綱改正について
- 7 そ の 他
富士急湘南バスの一部減便について
(適用日：平成 25 年 12 月 1 日～/対象路線：寄線・ブルックス循環便)

【事務局】 会議に先立ち、本会の議事録・資料の公開を構成員に説明、了承される。

以後の議事進行を会議設置要綱第 6 条第 1 項の規定により会長に委任。

【会 長】 松田町地域公共交通会議を開始する。

会議の成立要件として、要綱 6 条第 2 項に基づき会議が成立することを報告(構成員：26 名出席)。

【事務局】 配布資料の確認(次第・名簿・資料 1-1～資料 4 及び参考資料)。

議題 1 の「平成 24 年度下半期(及び)平成 25 年度上半期の乗合バス運行実績等、次年度、平成 26 年度の運行体制」を説明。

【説明内容】

○資料 1-1 「デマンドバス事業から乗合バス運行事業補助への変遷」

デマンドバス事業の①導入経緯・②年度別実施状況・③実施結果を説明。

この実施状況を踏まえ、④平成 24 年 10 月以降の新たな施策である「乗合バス運行事業補助」制度を導入。

これは、富士急湘南バスの既存バス路線の拡充施策で、増発及び各地区への枝線乗入れをしているもの。

⑤運行系統は増発・枝線運行を 2 系統。既存便の枝線運行を 4 系統で実施。

その運行路線図は⑥に示した通りである。

○資料 1-2 「デマンドバスに代わる松田町独自の乗合バス運行事業等(平成 24 年度下半期以降)」

本資料にて、デマンドバス事業でニーズのあった路線実績を説明。

本実績を踏まえ、現行の増発・枝線運行の運行計画を設定。

○資料 2 「乗合バス運行事業実績等(平成 24 年 10 月～平成 25 年 9 月)」

本資料にて事業開始後 1 年間(平成 24 年度下期及びの 25 年度上期)の乗合バス運行事業の利用実績を説明。

【表 1】平成 24 年度下期(10 月～3 月)寄方面実績 []内は前年同期値。

枝線乗入れ利用者：5,303[4,418]人。885 名増。

増便利用者：1,266 人[-] 2 事業計 6,569 人。

【表 2】平成 25 年度上期(4～9 月)寄方面実績 []内は前年同期値

枝線乗入れ利用者：5,209 [4418] 人。791 名増。

増便利用者：1,572 名[-]。2 事業計 6,781 人。

【表 3】平成 25 年 9 月 2 日～13 日(土日除く 10 日間)寄線乗降調査実績

枝線乗入れバス停において、土佐原公民館バス停以外については、一定の利用者が認められた。

【事業実施考察】

(1)枝線乗入れ実施後、乗車人員は増加。

(2)増便への利用ニーズも一定数認められる。

(3)枝線乗入れ便の内、唯一利用実績が減少している新松田駅 16 時 05 分

発については、次便の 16:40 分発、既存便に利用者がシフトしている。

(4)乗降調査結果において、土佐原公民館バス停の期間中利用者は0人。考察は以上の4点。これらを踏まえ、次年度の運行計画をお諮りしたい。事務局案としては、資料2右下に記載したように、以下の観点から、本年度と同様の運行を継続したい。

(1)引き続き地域の足を確保する観点。

(2)乗降調査期間中の土佐原公民館バス停の利用者数は0人であったが、本結果に拘束されることはない。将来的な観光振興、通学需要が当該地域で考えられることから、性急な路線廃止の判断は懸命でない。

協議案件に係る説明は以上である。

【会 長】 乗降調査実績は、10日間のみであったが、土佐原公民館バス停の利用状況は0であったことは特筆すべき事項である。

しかし、全体として、平成24年10月からの増発・枝線運行の実績は、前年同期と比べ、増加しており施策の効果が発現している。

よって、継続運行したいとの事務局提案趣旨であったが、意見等をお聞かせ願いたい。

【構成員】 資料2の内容(数値)確認についての質問。

【事務局】 確認次第、構成員に報告するので、会議は継続してもらいたい。その他の質問等があれば、発言を頂きたい。

【構成員】 湯の沢地区は、増便等が実施され利便性が向上し、住民は大変喜んでい

る。しかし、枝線乗入れ用と既存の県道沿いバス停と複数存在し、時間帯により停車しないバス停前で待ってしまい、乗り遅れた事例などあったと聞いている(但し、現在では運行形態にも慣れ、問題なく利用)。

また運行当初、住宅街にバスが進入は如何なものかという話もあり、バス停は県道沿いのバス停のみ(=枝線用バス停は不要)としてはどうかとの意見もあったことから、今後の運行形態について憂慮している。

【事務局】 その意見は事前に聞いており、会議開催にあたり当方が、湯の沢自治会長に確認をした。

その中では、開始当初は意見もあったが、現状では目立った意見は無いとのことであった。

よって、次年度も同様の形態で継続運行をしたく、(案)を示させて頂いた次第である。

【会 長】 私もその指摘は気になっており、事務局とは別に自治会長にお伺いした。

運行当初は、デマンドバス車両より大きいバスが住宅街に乗り入れることを懸念していた住民の方もいたようだが、事務局の説明にもあるように、最近ではそのような意見は出ておらず、今後の運行についても、同様に問題な

いと聞いている。

【構成員】 事務局及び会長の説明、了承。

【事務局】 資料訂正の説明(HP掲載資料は訂正後のもの)。

【構成員】 資料訂正は、上茶屋地区の件であるが、湯の沢地区においては、県道沿いの既存バス停と枝線乗入れ用バス停の双方を循環する形式か。

【事務局】 資料2-表3中の網掛け部分のバス停が枝線乗入れをしているバス停である。
上茶屋地区は、デマンドバス社会実験時に県道沿いのバス停利用ではなく、より地域の中程に入る形で運行をした。

しかし、現在の施策においては、Uターン場所の確保等の問題点があり、既存の県道沿い上茶屋バス停を利用している。

【構成員】 湯の沢地区については、県道沿いのバス停と、住宅街の中のバス停と停車方法が2種類存在するのか。

【事務局】 その通りである。

【構成員】 既存の路線バスの県道沿いバス停と枝線乗入れ用のバス停は時間帯によって使い分けをしているのか。

【事務局】 資料1の3項及び4項に示したように、枝線運行をしている。
路線図にあるように、湯の沢地区については、枝線用バス停として、湯の沢上、下バス停。

通常便は県道沿いの湯の沢団地バス停を利用している。

この枝線用バス停の設置個所は、住民ニーズ結果に基づくものである。

【構成員】 対象地区の方にとって、(バス停が複数存在することは)周知の事実であり、現状、混乱が生じていないことが理解できた。

【事務局】 事業開始当初は、バスが住宅街に乗り入れるということで懸念する声があったのも事実。

しかし、これも住民ニーズを計った上で、乗り入れ運行している。

現状は、利便性確保ができているとの声であり、今後も継続して事業を実施したい。

【構成員】 事務局説明、了承。

【構成員】 関連質問として、土日祝日で枝線・増発運行をする予定はあるか。

【事務局】 デマンドバス事業は、土日運行はしていない。よって、休日の利用ニーズの調査はしていない。

休日についても、確度の高い利用ニーズがあれば、事業者と調整の上、社会実験を行うことも検討に値すると考えているところである。

【構成員】 事務局説明、了承。

【副会長】 萱沼自治会で利用ニーズ調査を実施するということか。

【事務局】 原則、自治会で対応して頂きたい。

調査の結果、利用頻度が高いことが確認できれば、町への要望を通じ、本会議の協議案件とさせて頂くものである。

但し、運行実施となると、各自治会との各種調整もあり、多少の時間を頂くことはご承知おき願いたい。

【副会長】 利用頻度が高いことが確保出来れば、運行は可能ということか。

【事務局】 デマンドバス事業において、乗車1日平均3名以上というニーズがあった箇所には枝線運行を実施しているルールがある。

利用頻度が低い箇所は費用対効果の観点から運行していないが、確度の高い利用要望がある場合は、各種検討の上、公共交通路線に位置付けることは吝かではない。

【会長】 萱沼自治会の中で検討もらいたい。

【構成員】 了解。

【構成員】 神山地区には、本施策(増発・枝線運行)において、1日上下6本の運行があり、利便性が向上し、地域住民は大変に喜んでいるところである。

但し、朝方の早い時間(7~8時台)に、神山地区への停車バス(寄便及びブルックス便)が1本もない。

以前は、大井町の高尾方面からのバスが朝方に神山バス停に停車していたが、現在は10時台に下曽我方面からのバスが停車するのみである。

地域住民からの特段の不満の声は無いが、通勤通学の時間帯を考慮し新松田方面行バスを1本でもよいので、運行させて頂くことはできないか。本結果を神山地区の役員会で報告したいと思っているので、見解をお聞かせ願いたい。

【事務局】 神山便については、デマンドバス運行時は朝便も運行していたが、乗車人員が少数であった。

それらの実績を踏まえ、現在の乗合バス運行事業を実施しているため、無くなったものである。

しかし、子供を中心に利用度が高いのであれば、本協議会の中で議論することは吝かではない。

但し、デマンドバス実証実験時の行ったアンケートにおいては、利用したい人と、実際の利用数にかい離が生じていたことも事実である。

確かな利用ニーズがあるのであれば、運行を検討するが、直ぐとなると、各地域の平等性確保の側面から、非常に難しいと考えている。

引き続きの検討課題とさせて頂きたい。

【補足説明】

資料3(バス通学定期助成・シルバーパス助成事業)を用い、神山地区での助成実績が低調である実態であること及び一定数の需要が無い現状では運行

が困難(但し、需要が相当数見込める場合は今後の協議対象となり得る)であることを追加説明。

【会 長】 次年度の運行体制(案)の承認について提案。

【構成員】 異議なしの声

【事務局】 報告事項(1)「松田町地域公共交通対策(資料3)」について説明。

【説明内容】

(1)「バス通学定期券助成事業」について説明。

(1-1)費用は、個人・町・事業者(富士急)で各1/3ずつの負担。

(1-2)住所別集計結果、寄地区の利用者が大半。庶子地区でも一定数の利用が認められる。本年度の利用者数は81名(10月末現在)である。

(1-3)執行状況については、本年度360万円の予算で執行中。

(2)「高齢者バス定期券助成事業」について説明。

(2-1)費用は、個人・町・事業者(富士急)で各1/3ずつ各7,000円の負担。

(2-2)住所別集計結果、こちらも寄地区の利用者が大半。庶子地区でも一定数の利用が認められる。本年度の利用者数は93名(10月末現在)である。

(2-3)年齢別集計としては、65~70歳の利用者が大半。70歳以上の方も利用。

(2-4)執行状況については、補正予算を今後編成し、需要増に対応予定。

報告事項(2)地域公共交通会議設置要綱改正について説明。

【構成員】 バス通学定期券助成事業について、寄地区の小中学生の利用はあるか。

【事務局】 湯の沢地区の児童の通学先は、松田小中学校であるが、資料の住所別集計上は寄地区含まれる。

また、町外の私学に通学している寄(湯の沢地区以外)在住の学生がおり、利用はある。

【構成員】 事務局説明、了承。

【事務局】 報告事項(1)「松田町地域公共交通対策(資料3)」を説明。

改正は、県の組織改編及び神奈川中央交通の加入(神奈交バスからの変更)による構成員変更である。施行日は平成25年4月1日付。

【富士急】 「その他事項」として、平成25年12月1日付ダイヤ改正を説明。

【説明内容】

(1)ダイヤ改正はどちらも、土休日のみ。

(2)寄便の改正理由は小田急線との乗継ぎ向上の為。

(3)ブルックス便については、利用者低迷の為、減便(上下各2便計4便)。

本便は神山エリアを通過するが、寄方面への日中のバスで代替え。

(4)朝方の新松田駅発神山方面行きは、第一生命本社移転に伴い、路線廃止。

また、交通規制の関係で上茶屋経由とし、神山には乗り入れていないが、今後の需要等を鑑み、朝方の乗入れは継続検討。

(5)平成 25 年 4 月からの消費税改定に伴い、路線バス料金及び「まちなりバス」の値上げを社内検討している。正式な決定後、周知を図る。

【構成員】 神山方面に乗車の場合、新松田駅からの乗車口が複数あり、分かりにくい。系統の経由地等を明確にし、方向幕に示して欲しい。

【富士急】 検討する。

【事務局】 本日の協議結果等を関係交通機関と各種調整の上、次年度の運行計画等に反映。また、今後の情報提供は、町HP及び広報紙等で随時、周知を図る。

【会 長】 その他事項終了及び会議終了の報告。

【副会長】 閉会の挨拶。

【会議時間 59 分】